

学生観光マップ制作活動報告書 ～かつらぎ町～

2014年3月3日作成

メンバー

横田友教・永友艶頌・岡崎准也・市川伊織・西角吉貴・小池美紗

●定例会議

かつらぎ町マップ作成チームは毎週火曜日に2時間弱の会議を行い、作業の中間報告や、今後の方向性などについてチーム全員で共有、審議する時間を設けてきました。

定例会議で話われた内容は、基本的にはマップ作成に関することでしたが、具体的には、次に挙げる項目について話し合いました。

・かつらぎ町の魅力についての再考察

1年時には、クリエイティブではなく、地域インターンシップ LIP として活動し、かつらぎの観光資源について調査していたのですが、今回かつらぎ町のマップをクリエイティブで作成するというので、かつらぎ町の魅力とは何なのかということ「学生目線」で評価しなおす作業をしました。

1年時の地域インターンシップでの調査結果や体験を参考にしながらも、メンバー全員が再びかつらぎ町まで何度か実際に足を運び、目に見える観光資源だけに囚われず、ソフトパワーの面からかつらぎ町の魅力を探っていこうとする中で、様々な考察が生まれました。

ここで再びかつらぎ町の魅力について深く考察しなおすことで、「学生目線」とは何なのか？私たちが目指すパンフレットはどういったものなのか？といった今後の方向性が確立されました。

・作成するパンフレットについての審議

昨年の地域インターンシップの際に、従来のかつらぎ町のパンフレットに対する批判や改善策についての考察はしていたのですが、それを今回のクリエイティブで形にしていくにあたって、その考察についての再審議と、具体化を図る必要がありました。

かつらぎ町のパンフレットに対する理想はチームの意見として持っていたものの、それを形にしようと試みる過程で、いくつかの壁を乗り越えなければいけないことに気づかされました。

作成にあたってのレイアウトやデザイン面での専門性の欠如、コスト面による限界、などたくさん問題が浮上しましたが、それらを一つ一つ乗り越えていくというよりは、それらの条件下でいかに自分たちの思い描いてきた理想に近づけていくかということに審議の焦点を当てて、話し合いました。

・活動意義とその効果についてのアセスメント

自分たちはなんのためにかつらぎ町のパンフレットを大学生の立場で作成しようとしているのか？その意義はなんなのか？自分たちの活動は何らかのプラスな効果を地域に与える可能性をはらんでいいるのか？

このような、根本的なことについても話し合う時間を設けるようにしていました。作成して、その効果をアンケートで集計して、終わる。これだけでは全く意味をなし

ていないというのが私たちチームの基本理念です。

1つのことをやりとげようとするうえで、それらの活動が今後どのようにメンバーにフィードバックされ、どのように地域に還元されるか？これについての議論は、あらゆる企画、プロジェクトで軽視されがちなことですが、最も重要なことであると思っています。



私たちは、ただ作業を遂行するのではなく、「なぜやるのか」についての議論を交わすことで、今後に生かされるプロジェクトを目標に毎週の会議にのぞんできました。

●現地調査

この学生観光パンフレット作成の現地調査は、昨年度の活動から数えて、幾度もかつらぎ町を訪ねた。かつらぎ町は、和歌山県伊都郡に属する県内有数するフルーツの産地であり、地元にはあまり知られていない観光地も存在する。僕らは度重なる現地調査を行い、より良いパンフレットを作成するために勤しんだ。

以下に僕らが得た情報と共に、その代表的な観光地の紹介をする。

* 「初桜酒造」

高野山の地酒「般若湯」をはじめ、和歌山のお米や果物を使ったお酒が造られ、販売されている。1765年から続く伝統ある酒造である。現地調査では、お店の方にお話を聞かせていただき、お酒やお店について教えていただいた。この地元で長年愛され続けている酒造を紹介しない訳にはいかないということで、今回パンフレットへの掲載を決めた。



* 「丹生都比売神社」

高野山北西にある天野盆地に鎮座する。空海が金剛峯寺を建立するにあたっては当社が神領を寄進したという言い伝えがあり、古くより高野山と深い関係にある神社である。当社背後の尾根上には高野山への表参道である高野山町石道（国の史跡、世界遺産）が通っており、当社は高野山への入り口にあたることから、高野山参拝前にはまず当社に参拝する習わしであったという。当社自体高野山からの影響を強く受けており、境内には多くの仏教系の遺跡・遺物が残っている。また、高野山の荘園には当社が勧請された関係で、和歌山県・奈良県を主とした各地に分霊の丹生神社が建てられている。

丹生都比売神社はかつらぎ町を代表する観光地であると僕らのチームで満場一致したので、今回このパンフレット掲載に入れた。



* 「フルーツの農園」

かつらぎ町は”フルーツ王国”と言われるほど年間を通して、多種多様なフルーツを採ることができる。フルーツを収穫できる観光地という条件がもともと限られていることは、言うまでもない。そのため、このパンフレットにはかつらぎ町に点在する農園をリストアップし、観光パンフレットに掲載することに決定した。

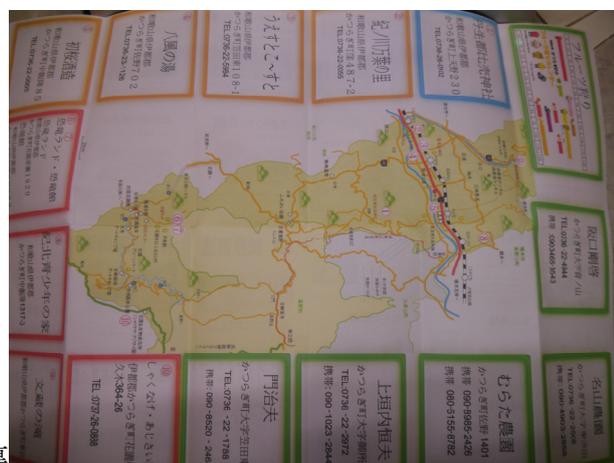
他にも多数の観光地（滝・カフェ・体験型宿泊施設など）を観光パンフレットに掲載しているが、情報量が膨大になるため、ここでは割愛する。

●パンフレット

そして、パンフレットが完成した。



表



裏

そして、完成したパンフレットを用い、メンバーがアンケート調査を行った。以下にその報告を載せる。

●パンフレットに関するアンケート調査の結果について

完成したパフレットと、これまでの役場のパンフレットを実際に見比べてもらい、どちらのパンフレットのほうがよいかつらぎ町に行ってみたいと思ったかについて、アンケート調査を行った。

以下がアンケートの詳細である。

*調査対象：学生

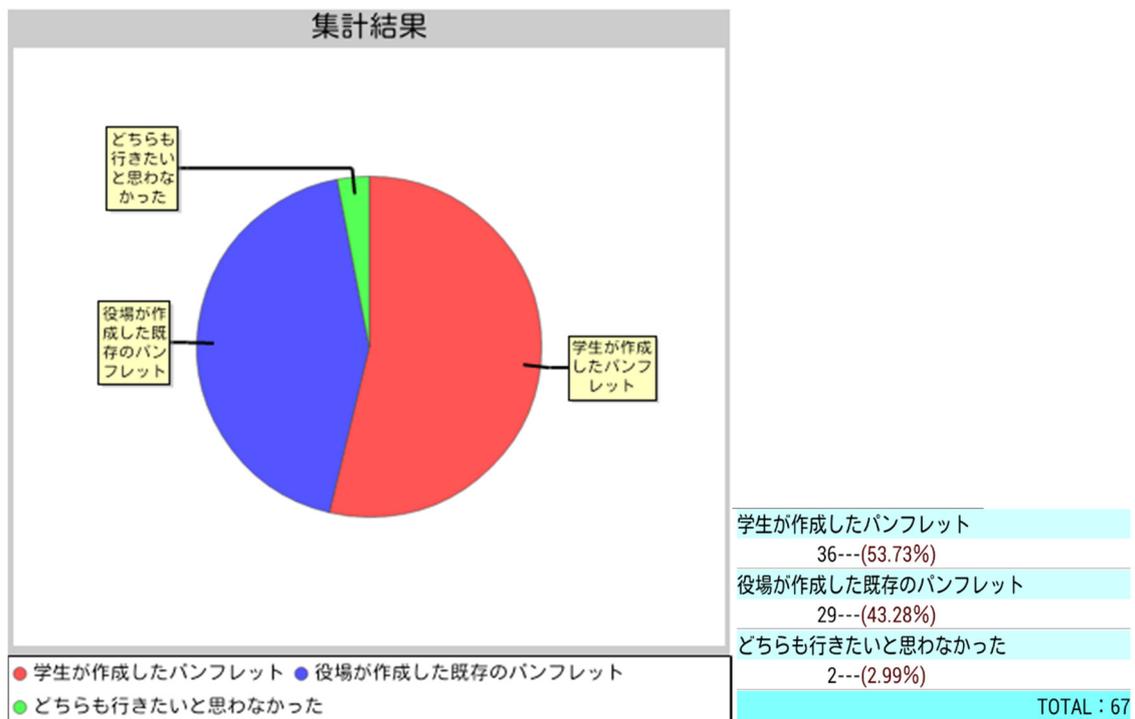
*人数：67人

*質問内容：「役場が作成した既存のパンフレットと、学生が作成したパンフレットとを見比べて、どちらがよいかつらぎ町に行ってみたいと思いましたか。」

*結果：①学生が作成したパンフレット 36人

② 役場が作成した既存のパンフレット 29人

③ どちらのパンフレットも行きたいと思わなかった 2人



理由も合わせて回答してもらった。主な理由は以下のとおりである。

- ① 学生が作成したパンフレットを選択した理由
 - ・ 手作り感に好感がもてる。
 - ・ テーマ分けがわかりやすい。
 - ・ ほかの市町村とは違った独自性がよい。
- ② 役場が作成した既存のパンフレットを選択した理由
 - ・ 写真がきれいで、全体的に整っている。
 - ・ 学生のパンフレットは全体的にぼやけていて、雑。
- ③ どちらも行きたいと思わなかったを選択した理由
 - ・ どちらも情報が多くて見にくい。

上記の結果から、かろうじて既存のものよりいい結果が得られたが、まだまだ改善の余地があることがわかった。

終わりに・・・

この活動は約1年半を通して、学生たちが一つの実在する町を対象にパンフレットを作成する活動であった。しかし、活動期間中は困難なことばかりであった。スケジュールの遅れ、現地調査での準備不足など、挙げればきりが無いほどである。しかし、得るものは多く、

人生初めて観光地のパンフレットを作成するという仕事をやり遂げた達成感はこの上ない。
この一年半の活動を誇りに思いたい。